

神ギ協

神奈川ギター協会

〒238-0031

横須賀市衣笠栄町 1-70 共同ビル 3F

石田ギター教室内

☎FAX. 0468-53-9866

2006/7/15 発行

(編集責任者)川俣 明

第36回神奈川新人ギタリストオーディション結果

合格は 林 祥太郎さん、高橋 力さん、比嘉 隆則さん の3名



本選出場者の方々

神奈川ギター協会主催第35回新人ギタリストオーディションを終えて

神奈川ギター協会実行委員 菊地通介

7月2日(日)杉田劇場にて第35回新人ギタリストオーディションが開催された。今年は48名の応募があり、昨年次点で予選免除の1名と、当日棄権者2名を除く45名で予選が行われた。予選課題曲はソルのアンダンティーノ Op. 32-1。その後3分以内の自由曲を演奏する。アンダンティーノに関しては、符点、3連符等のリズムが曖昧な奏者が多く、和声感覚、各声部のバランスに神経が行き届かず、伴奏の音を不用意に強く弾いてしまう奏者が多かった。例年に比べると、課題曲に些細なミスをする奏者が目に付いた。次に弾かれる自由曲が良く弾けているのに残念であり、もっと課題曲に重点をおいてほしい。また、2名の演奏者が課題曲の反復を省略するとの指示に従わず、失格とされてしまった。全体のレベルから考えて、聴き劣りする演奏ではなかったのが残念であった。今後は演奏規定等をよく把握して臨んでもらいたい。審査の結果、7人の演奏者が選ばれ、昨年次点1人を含む8名が本選で演奏することになった。

課題曲はモレノ＝トロローバのトリーハ。その後、6分以上10分以内の自由曲を演奏する。本選出場者と演奏順、結果は以下の通り。(空欄は関係者。)

	奥田	渋谷	青沼	石田	高久	大橋	川俣	石村	小川	興津	岸	藤原	志田	菊地	西本	堀井	合計	平均点
林 信太郎	77	77	75	78	75	76	72	73	75	75	79	75	76	78	80	77	1218	76.125
新野 英之	76	79	76	77	76	77	84	75	78	76	78	77	77	76	79	77	1238	77.375
斎藤 優貴	81	77	79	79	80	78	76	77	80	75	83	80	78	77	82	80	1262	78.875
高橋 力	79	79	84	80	82	77	81	79	82	76	81	80	79	82	80	78	1279	79.9375
林 祥太郎	83	80	85	85	81	82	84	82	83	76	84	86	88	—	83	82	1244	82.93333333
佐藤 雅也	78	78	83	—	77	75	72	80	80	75	79	81	76	76	79	77	1166	77.73333333
比嘉 孝則	84	78	79	79	79	78	80	83	79	74	78	84	81	83	80	—	1199	79.93333333
中里 一雄	80	77	78	78	78	78	71	76	79	74	81	81	80	81	82	—	1174	78.26666667

林 信太郎 / 自由曲：ワルツ・アン・スカイ (R.ディアンズ) フェリシダージ (A.C.ジョビン)
 昨年度次点。トリーハは遅いテンポで演奏される。全体にイン・テンポで弾かれたのだが、楽譜に書いてあるテンポの変化をもっと意識的に表現して欲しい。ワルツ・アン・スカイは、やや単調に聴こえた。どことなく頼りなさを感じる。もっとメリハリのある表現、特にリズムに機敏に反応する演奏を聴きたい。途中で1弦の開放弦が急に浅い音に変わるのも気をつけたい。フェリシダージになると、部分的にリズムの生き生きする箇所も見受けられたが、やはり最後まで一貫してしっかりしたリズム感が欲しかった。

新野 英之 / 自由曲：大序曲 (M.ジュリアーニ) トリーハはテンポがゆっくりしすぎ。大序曲ではアンダンテ・マエストーソのテンポから考えると、アレグロ・マエストーソはやや遅めに弾かれる。落ち着いたテンポで古典の様式感を出そうとしたのだろうが、もう少し躍動感のある演奏をして欲しい。真面目に取り組んでいるというのが伝わるが、まだ自分の中で納得のいく段階までできていないようだ。これからまだまだ伸びる奏者と予想できるので、今後の努力に期待したい。

斎藤 優貴 / 自由曲：小麦畑にて (J.ロドリゴ) セビーリャ (I.アルベニス)
 8歳の小学生。トリーハは大人のような成熟した感情が感じられた。小麦畑ではテクニックの冴えもあり、拍節感を意識したアクセントが効いていて聴きやすい。中間も低音の歌いまわしが自信に満ちたものだった。ただ、指頭奏法なのであろう、弦を擦る音が随所に入る。セビーリャではまだ押弦がしっかりしていない部分もみられ、音の冴えが衰え始める。中間部分のレントも拍節感を意識してアクセントを入れてはいるのだが、その後の音が不鮮明で精彩がなくなってしまった。大胆な節回しで弾こうとしているのに惜しい。(次点)

高橋 力 / 自由曲：プレリュード、アレグロ BWV998 (J.Sバハ)
 この人は、自分の良い音、もしくは良い音はこれだという確信を持っているようだ。ただ、楽曲の大きな区切りで必要以上に間を取るのが気になる。トリーハでは美音を生かそうと思って丁寧に弾こうとするのだが、それが災いとなり大人しくなってしまう。もう少し荒れた音になっても構わないから演奏に大胆さが欲しい。プレリュードとアレグロは明快なタッチで弾かれる。達者な指運びには非凡なものを感じさせたが、後半リピートする前に一瞬立ち止まってしまったのが悔やまれる。(入賞)

林 祥太郎 / 自由曲：大序曲 (M.ジュリアーニ)
 トリーハでは美しい音と歌心が感じられる。安定したテクニックがあるので安心して聴くことができる。大序曲では、アンダンテ・マエストーソが遅めのテンポで弾かれた。劇的なフォルテ、繊細なピアノでコントラストを付けている。欲を言えばもう少しアンダンテを速めのテンポ設定にすれば、次のアレグロ・マエストーソへの移行が自然に聴こえたのではなからうか。アレグロはスピード感もあるし、どんなに速くなくても荒くならず流麗な音楽に聴こえるところがこの人の素質を物語る。(入賞)

佐藤 雅也 / 自由曲：エレジー (J.K.メルツ)

トリーハは丁寧な演奏である。表情も豊かである。エレジーでは高音が細い印象をうけるので、もう少し太い音色で弾かれたならば、さらに聴く側に伝えられたのではないだろうか。アルペジオの部分になると、歌いまわしが影を潜めてしまった。アルペジオ全体が機械的に聴こえ、テンポも速くなり前後とのバランスが崩れてしまう。ラルゴからアンダンテへの連結では、低音が強すぎて違和感がある。どのような表情が適切かを考えてもらいたい。最後のアルペジオ部分ではピアノシモなのにフォルテで弾かれたのは考えがあってのことだろうが、雑に聴こえた。

比嘉 隆則 / 自由曲：小川の岸边による主題と変奏曲 (F.ソル)

過去において常連の参加者だった、久しぶりの参加である。他の本選出場者にはない雰囲気、落ち着いた朴訥とした演奏である。渋いと言えばよいのか、依然よりも深みが増したようだ。トリーハでは意識して歌うことはせず、力みとか緊張とかとは無縁であり、ひたすら自分の世界を作り上げ、朗々と弾ききった。ソルの技術的な変奏を、無理なテンポ設定にしないで弾いたので、それが安定した骨太の演奏につながった。しかし反面、大味で無難な演奏で終りかねないきらいがある。(入賞)

中里 一雄 / 自由曲：コンポステラ組曲より前奏曲、ムニエイラ (F.モンポウ)

全体に神経の行き届いたタッチで弾かれるので安定した音楽に聴こえる。クリアーでありながら落ち着いた音色。トリーハは淡々と弾かれた。もう少し感情を入れないと、表情が乏しい感じがする。前奏曲では音を外す細かいミスがあったとしても、音楽を崩すことがない。ムニエイラも快く聴こえた。全ての曲が手の内に入り、相当長い年月弾きこまれた印象をうける。それでも弾きなれたからといって自分勝手にならず、客観性をもって演奏された。そこに情感豊かに弾かれる部分が加われば、さらに良い演奏になったに違いない。

審査の結果、**林 祥太郎、高橋 力、比嘉 隆則**の3名が入賞した。**斎藤 優貴**は次点となった。入賞した3人は来年の神奈川ギター協会フェスティバルで招待演奏する。

ここ数年は応募人数が増加傾向にある。今年は小学生から60歳過ぎの参加者があり、ギター愛好家の底辺の広がりを感じた。若い人たちの演奏もさることながら、熟年(?)の本選出場。その落ち着いた演奏を聴いた同年代の人たちに、ギターに対するさらなる情熱と希望を与えたに違いない。来年以降への期待が高まる会であった。



林 祥太郎さん

オーディション一週間前の修学旅行、沖縄の碧い海にギターを忘れた四日間。驚くほど感覚は鈍るし期末試験は目前に迫るし・・・で大変動揺しました。この状況を救ってくれたのは菊地先生のこの言葉でした”ガッツ!”



高橋 力さん

2位になることができず率直に嬉しいです。予選で十分に力が発揮できなかったため、その分を本選にぶつけようと本選に臨みました。これからも更に上を目指して日々進歩していきたいと思っております。



比嘉 隆則さん

長年ご指導頂いている堀井先生には心からお礼申し上げます。これからどこまで行けるかわかりませんが、ここまで辿り着けた喜びを胸に、一歩ずつ進んで行きたいと思います。ギターが・音楽が好きだから“もっと、上手くなりたい”

審査室では点数集計にコンピュータが導入されて速やかな集計が行なわれた。また運営は、実行委員の綿密な計画の下に、委員を始めスタッフとして働いた方々もてきぱきと行動できて、速やかな運営であった。本年度は若いスタッフの方々が多く、心強い思いがした。



コンサート案内

多くのコンサートをリアルタイムで紹介します。神奈川ギター協会のホームページを訪ね下さい。 <http://www.onyx.dti.ne.jp/~kana-g/> またはパソコンをお持ちのお弟子さん、御友人、石田委員長 他、にお尋ね下さい。ホームページへのコンサート案内掲載は藤原浩明会員に、電子メールで(または、なるべく字のはっきりした印刷物の郵送で)御知らせ下さい。尚、掲載は会員関係に限ります。

「第74回LECGC」日時：2006年7月30日(日) 14:30開演 会場：大倉山記念館 第10集会室
出演：第1部：平田 誠 第2部：前場裕介 入場料：1回のみ2300円(年会費6000円で5回コンサートが無料で聴けます)
問合せ：clgt.masubuchi@nifty.com (LECGC)

第7回全日本アマチュアギターコンクール 日時：2006年8月20日(日) 会場：三鷹市芸術文化センター 風のホール
最終予選 13:00開始 本選 17:00開始 問合せ：shida@mac.com (志田)

委員会から

・フェスティバル反省

今回は53000円の赤字。収入よりも出費が上回った原因としては郵送費が当初の予想よりも上回った。印刷代(全てを含めた)を安くする事は本当に不可能なのか検討する必要有り。

延べ入場者数が前年より減。しかし、通常は観客が最後の方になるといなくなるのに今回は最後まで観客が残っていた(これは、最後に専門家である会員演奏を最後に回した効果か)。入場者数が減った理由としては1)GG誌のコンサートガイド欄への告知をし忘れた2)ばど等各ミニコミ誌や自治体の広報掲載依頼が不十分。対策として、掲載依頼の徹底、特に自治体が発行する情報誌を有効に活用出来るよう努力する。

・会報関連(住所録、会計報告の取り扱い)

会報のネット配信に伴い、住所録と会計報告をどう取り扱うか、個人情報に基づく資料なので慎重に取り扱う旨を明記し、各会員に郵送する(ネット配信は二つとも行わない)。

・次回オーディション課題曲

予選課題曲：メヌエット op25(第2大ソナタより)F.ソル(リピート無し、D.C.有り)トリオ演奏後メヌエットに戻る)本選課題曲：3つのメキシコ民謡より第2曲(por ti mi corazon)M.M.ボンセ両課題曲とも版指定無し。

新会員

広瀬恵子 ギターを山口昭三氏に師事。新潟県を拠点に演奏活動。広瀬恵子ギター教室 (社)日本ギター連盟正会員。住所等は住所録参照のこと。

[編集後記]杉田劇場のオーディションはいかがでしたか。残響が大きく、速弾きの方は以外に損をしたのでは?一時大流行のフォコも審査員の耳も飽きてきていて自由曲としては不利のような気がしているのは私だけでしょうか?テクニックだけでなく より高い音楽的内容も求められるようになってきたのだと思います。